

## 委員会事業報告

委員会名	特別委員会	委員長名	山根 康徳
事業名	「鳥取市長マニフェスト」市民検証・評価大会		
実施日時	「鳥取市長マニフェスト」検証・評価大会 2007年8月19日（日）13:30～16:30 第1回勉強会 2007年7月13日（金）19:00～21:00 第2回勉強会 2007年7月19日（木）19:00～21:00 第3回勉強会 2007年7月26日（木）19:00～21:00		
会場	鳥取市民会館 大ホール （第1回勉強会 鳥取県民文化会館第2会議室） （第2回から第3回勉強会 鳥取市民会館大会議室）		
参加人員	内部：68人	外部：258人	計：326人
外部協力者	北川 正恭氏、田嶋 義介氏、小野 達也氏、永山 正男氏、 ローカル・マニフェスト推進ネットワーク中国、ローカル・マニフェスト推進首長連盟、鳥取市、鳥取商工会議所 青年部、鳥取県東部中小企業青年中央会、 社団法人鳥取法人会青年部、鳥取県東部商工会青年部連絡協議会		
事業の目的に達したか	鳥取県内で初となるマニフェスト検証・評価大会は「マニフェスト型地域経営」の定着を行う上で重要な一歩となる大会でした。そして多くの外部の方々との関わりを持ち、市民が主体となってマニフェストを検証・評価する必要性を各マスコミが大きく取り上げて頂きました。反省すべき点も御座いましたが、市民に参政意識・社会への参画意識の向上を働きかける機会が出来ました。		
実施上の問題点	計画から実施にいたるまでの期間が長く、スケジュールが思うように進まないことがありました。アンケートの回答率が目標より下回り、また大会当日の参加者が少なく、広報宣伝の仕方を改めて考える必要があると感じました。 このような事になった原因には全メンバーの企業やご家族の動員と他LOMや他団体への協力をもっと強化にしていればと、反省しております。また早い段階からマスコミへのアクションを行いました。直前にならないと大きく取り扱わなかったのも原因の一つだと思います。今後はマスコミとの連携を強化にして一緒に大会を盛り上げていく仕組みも必要だと感じました。しかし各方面から動員が寂しかったとの声を聞かなかで、大会内容の反響が強く次回に繋げる糧になったと思います。【具体的な対策として全メンバーへの動員協力の徹底を行う、一人が一人以上の参加を呼び掛ける運動が大切です。そして新聞社並びに放送局への後援依頼や番組作成依頼、また他団体への動員協力依頼などを働きかけていくことも考えられます。】		
次年度への引継ぎ事項	今回の事業は“マニフェスト検証・評価大会”のモデルケースとして行えたと思います。鳥取市長マニフェスト評価委員の数名から「次回は私たちで主体的に行いたいので、その時は協力して下さい。」と次の展開も見えてきました。まずは今回の主催者である私たち社団法人鳥取青年会議所が今後へ発展させるうえでも「マニフェスト型地域経営」に、まだ着手していない各地域に大会報告書を持参して参政意識向上の重要性を働きかけていきます。そして次年度には“マニフェスト”に限らず、住民が政治や行政にリテラシー（深い理解力）を持って参政意識・社会参画意識の向上が行える段階へ展開して頂ければと思います。		

委員会名	特別委員会	委員長名	山根 康徳
事業名	特別委員会アワー“公益法人制度改革はLOMの意識変革へのチャンスである”		
実施日時	特別委員会アワー 【2007年9月19日(水) 20:00～20:20】 勉強会 【2007年9月26日(水) 19:30～21:00】 【2007年9月27日(木) 19:30～21:00】		
会場	特別委員会アワー：9月定例会場(ホテルニューオータニ鳳凰の間) 勉強会：鳥取商工会館小中集会室		
参加人員	内部：72人	外部：0人	計：72人
外部協力者	なし		
事業の目的に達したか	委員会アワーと勉強会を通して公益法人制度改革の意義や方向性を分かりやすく説明できたと思います。公益法人制度改革は組織を縛るものではなく、改めて青年会議所の基本に戻り活動ができるチャンスであります。これからの社団法人鳥取青年会議所が地域の為に何をしていかなければいけないのかを一人一人が気づき、活発な公益活動が展開していける機会となりました。		
実施上の問題点	メンバーの全員参加とはいきませんでした。勉強会の補習を実施してメンバーのフォローを行いました。また勉強会では資料が少なかったとの意見が御座いましたが、最小限での紙資料で特別委員会メンバーからの分かりやすい言葉での説明に関心を強めて頂けたと思いました。質疑応答では多数の意見や質問が出て、もう少し時間配布を考慮すれば良かったと反省しております。		
次年度への引継ぎ事項	本年度では「公益とは何か」から考え、公益法人制度改革の意義や方向性を深く理解して頂きました。来年は公益法人制度改革施行の初年度となります。更に対外を意識した活動が行えるように公益法人制度改革に対してLOMの意識高揚を図って下さい。		

委員会名	特別委員会	委員長名	山根 康徳
事業名	(社)鳥取青年会議所 ～定款一部変更と新諸規程の策定～		
実施日時	2007年11月28日(水) 12月定例会並びに第102回定時総会		
会場	ホテルニューオータニ鳥取鳳凰の間		
参加人員	内部：68人	外部：0人	計：68人
外部協力者			
事業の目的に達したか	公益法人制度改革を見据えて組織の透明性と外部を意識した活動が更に行えるように情報公開規程と個人情報保護規程を策定した。定例会時での委員会アワーや勉強会を通して公益に対する意識と、なぜ新諸規程の策定が必要なかを理解してもらう事が出来た。		
実施上の問題点	昨年からの取り組みもあり、内容をすぐに理解して頂けるメンバーと時間をかけて理解して頂くメンバーに温度差を感じた。事情により勉強会に出席できなかったメンバーもいたが難しい規程ではないのでフォローに努めました。しかし「実践をしていかないと実感が湧かないのでマニュアルを作成してほしい」と言うメンバーの意見もあったが、規程その物が一つの手引書として捉えて頂きたかった。		
次年度への引継ぎ事項	今回は情報公開規程と個人情報保護規程の策定を行ったが、今後を見据えて定款・諸規程の変更や新諸規程の策定について研究をして頂きたいと思います。来年から施行されます公益法人制度改革やJCとして何をして行かなければならないのかを更に意識して下さい。		

委員会名	会員拡大特別委員会		委員長名	石破 秀文
事業名	会員拡大			
実施日時	2007年1月1日(月)～12月31日(月)			
会場	ルーム他			
参加人員	内部：96人	外部：0人	計：96人	
外部協力者	なし			
事業の目的に達したか	<p>対外的：各副委員長が核となり会員拡大の重要性をしっかりと理解し、それぞれのスキルアップの為にロールプレイング等で学んだことを、入会見込み者へ(入会に至らなくても)(社)鳥取青年会議所の活動をしっかりと説明し理解してもらえた。</p> <p>対内的：7名の新たな仲間の入会、そして積極的な青年会議所活動への参加によって、現役メンバーへもさまざまな刺激が得られ組織の活性化が図られた。</p>			
実施上の問題点	<p>拡大情報を持たないメンバーの意識がなかなか高まらなく、情報の収集において苦慮し、メンバー全体の拡大に対する意識の一体感を高めることができなかった、その為、2008年前期に向けてはそういったメンバーの為に会社や自宅付近の企業のリストを上げてもらうなどの工夫を行った。また、メンバーが副委員長ということで各委員会の事業開催前には動きが鈍くなってしまう事があったので、そのフォローをもっと他委員会で補うなどの工夫を行うべきでした。</p>			
次年度への引継ぎ事項	<p>メンバーの拡大に対する意識は個人差があり、特に情報を持たないメンバーは希薄になりがちです、そういったメンバーの意識を如何に引き上げ、組織全体の拡大意識の一体感づくり拡大に取り組むことが出来る工夫を行ってください。</p>			

委員会名	総務委員会		委員長名	鳥羽 明彦
事業名	褒賞			
実施日時	外部：申請期間 2007年4月11日(水)～11月12日(月)正午まで 発表、表彰 2007年11月28日(水)12月定例会時			
	内部：申請期間 2007年4月11日(水)～11月27日(火)正午まで 発表、表彰 2007年12月9日(日)(社)鳥取青年会議所クリスマス家族会時			
会場	外部：ホテルニューオータニ鳥取 鳳凰の間 東			
	内部：ホテルモナーク鳥取 仁風の間			
参加人員	内部：96人	外部：1人	計：97人	
外部協力者	永山 正男氏			
事業の目的に達したか	<p>外部褒賞は、各委員会が外部の方々と多くの関わり合いを持ち、共創しながらの事業展開をされた成果として、実に7年ぶりの受賞者ができました。そして、外部褒賞授賞式を行い、メンバー全員で受賞者の功績を称えることが出来き、喜びを共有出来ました。内部褒賞は、各委員会に2007年度の素晴らしい委員会活動を報告して頂きました。そして、クリスマス家族会にて、内部褒賞(最優秀委員会)を発表することで、受賞した委員会はもちろん、すべての委員会の励みとして頂くことが出来ました。申請期間を変更したことで早くから各委員長に褒賞の意味合いを理解して頂き、特に外部の方々と関わり合いが更に活発に行え、7年ぶりの外部褒賞受賞へとつながりました。</p>			
実施上の問題点	<p>外部褒賞は、7年ぶりの受賞ということで参考資料が少なかったため、本年度の資料をしっかりと次年度以降に残していきます。内部褒賞は、内部褒賞申請資料必須項目を設け、提出用サンプルを作成し議案に上程しましたが、説明・呼び掛け不足にて全委員会の統一が出来ませんでした。</p>			
次年度への引継ぎ事項	<p>外部褒賞は、次年度以降も各委員会に外部の方々と多くの関わり合いを持って頂けるように工夫、呼び掛け等を行い、外部褒賞申請が活発に行われるようにして下さい。内部褒賞は、</p>			

	<p>選考方法、紙とデジタルの保存方法、ファイル・記憶媒体の手配方法等を考慮し、内部褒賞申請資料必須項目・提出用サンプル等を作成し、内部褒賞申請資料を全委員会から提出期限内に提出して頂けるように呼び掛けをお願い致します。また、外部褒賞・内部褒賞を別事業計画にて行うことをご検討下さい。本年度、経験をしてみて、外部褒賞と内部褒賞は、内容では外部褒賞は対外的、内部褒賞は対内的要素が強く、スケジュールでは、提出締切・発表・表彰時期が違いますので、別々に事業計画を立てるべきと感じました。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

委員会名	広報委員会	委員長名	妹尾 祐司
事業名	ホームページの運営		
実施日時	2007年1月1日(月)～2007年12月31日(月)		
会場	J Cルーム他		
参加人員	内部：96人	外部：不特定多数	計：人
外部協力者	シセイ堂デザイン		
事業の目的に達したか	<p>(社)鳥取青年会議所を広く発信することにより、理念の浸透、活動への理解の促進を図り、多くの因幡市民にまちづくりについて関心を持ってもらうことができた。メンバー間の情報伝達、縦割りではなく横の連携、個々の連携が密に取れるようにし、青年会議所活動をよりいっそう活発なものとすることができた。</p>		
実施上の問題点	<p>まちづくり掲示板が機能しなかった。システム上の問題点もあったが、より簡単な活用方法をとる必要があった。メンバー掲示板については、委員会により活用度合いに差が出てしまった。更新のルールや手順などマニュアル化し、メンバーに徹底する必要があった。</p>		
次年度への引継ぎ事項	<p>私たちの事業のPRだけではなく、日々の活動や考えがより幅広く因幡市民に伝わるようにしてください。外部の声がもっと容易に取り入れることが出来るように工夫してください。広報は一委員会の取り組みではなく、全メンバーでの取り組みが必要です。意識改革が必要かと思えます。</p>		

委員会名	広報委員会	委員長名	妹尾 祐司
事業名	広報誌の発行		
実施日時	2007年1月1日(月)～2007年12月31日(月)		
会場	J Cルーム他		
参加人員	内部：96人	外部：不特定多数	計：人
外部協力者			
事業の目的に達したか	<p>広報誌の発行を通して、(社)鳥取青年会議所のこれまでの活動と今年度の活動を私たちの理念と共に内外に理解していただくことが出来た。対談においては因幡市民にまちづくりについて考えるきっかけとなった。毎月各委員会の特集号とすることで、メンバーに对外広報についての意識向上が図れた。</p>		
実施上の問題点	<p>毎月もっとまちづくりに踏み込んだ内容とすべきであった。ページ数を増やすなどの工夫を考えても良かった。配布先が当初の見込みどおり増やすことができなかった。</p>		
次年度への引継ぎ事項	<p>私たちの事業のPRだけではなく、日々の活動や考えがより幅広く因幡市民に伝わるようにしてください。広報は一委員会の取り組みではなく、全メンバーでの取り組みが必要です。意識改革が必要かと思えます。</p>		

委員会名	会員交流委員会		委員長名	田淵 裕章
事業名	2007年度(社)鳥取青年会議所 新年祝賀会式典			
実施日時	2007年 1月 6日(土) 18:30~19:20			
会場	ホテルニューオータニ鳥取(鶴の間・西)			
参加人員	内部: 72人	外部: 55人 (来賓8人 OB47人)	計: 127人	
外部協力者				
事業の目的に達したか	副知事をはじめ5市町長、外部褒賞者、また多くのOBに出席いただき本年度の活動方針・理事長の思いを限られた時間内で十分にお伝えする事ができました。対内的にも多くの出席をいただき意思統一・連帯感の高揚を図ることができました。			
実施上の問題点	式典前の新年祈願時に当委員会内での連絡の行き違いがあり遅刻・欠席者が生じました。当日まで目標人数に達していましたが、外部出席者の当日・前日キャンセルが相次ぎ目標の人数を割り込んでしまいました。シニアクラブの会長等、幹部の方々が他行事と重なってしまい出席をいただけませんでした。当日の祝電が非常に少なく、事前の広報活動に問題がありました。			
次年度への引継ぎ事項	出欠確認葉書をお送りした際、葉書の送付は不必要等重要な返答事項の記載がありました。送付前によく確認の上投函をしてください。現役会員へ事前の最終連絡時に各出席者の集合時間、褒賞者へはスピーチの時間を再度確認する必要がありました。お迎えする前に現役会員に集合いただき、役割の再確認をしたことにより受付等、外部の方に対して混乱無く気持ちの良いお迎えが出来ました。そして、館外・館内にて腕章を着けてお迎えすることにより心のこもったお迎えが出来ました。受付に関しても事前にマニュアルを作成し当日、担当者的に的確な説明をすることにより混雑時の混乱を回避することが出来ました。備品・活動写真等、失礼の無い程度に再利用し、式典会場の看板を懇親会と併用することにより大幅な経費が削減できました。より多くの出席者を確保するため開催日時等の検討をふまえ、失礼なく多数出席いただける工夫を考えていく必要があります。			

委員会名	会員交流委員会		委員長名	田淵 裕章
事業名	2007年度(社)鳥取青年会議所 新年祝賀会懇親会			
実施日時	2007年1月6日(土) 19:30~20:30			
会場	ホテルニューオータニ鳥取(鶴の間・中・東)			
参加人員	内部: 72人	外部: 55人 (来賓8人 OB47人)	計: 127人	
外部協力者				
事業の目的に達したか	副知事をはじめ5市町長、外部褒賞者、また多くのOB、現役会員に出席いただき更なる懇親を深めた上で2007年度(社)鳥取青年会議所に対するより一層のご理解をいただくことができました。開会中に現役会員が各テーブルをまわり来賓、OB方と積極的に挨拶、名刺交換をして更なる交流を深めることができました。対内的にも多くの会員で出席し、1年のスタートとして組織の活性化に繋がったと感じます。			
実施上の問題点	事前に積極的な挨拶、名刺交換を進めるようお願いしていたにも拘らず一部の現役会員が少し消極的であったように見受けられました。当委員会としても、もう少しスムーズに現役会員を誘導する必要がありました。外部褒賞受賞者の紹介時にステージへ注目が集められず、失礼な対応をしてしまいました。式典時間が超過したため、歓談時間が10分程度短くなりました。当委員会の事前確認が不十分であったため、外部褒賞者のご挨拶が押し気味になり終了時間が10分程度超過しました。			
次年度への引継ぎ事項	会計上より適切な懇親会を運営するに当たって、知事・5市町長からも飲食費をいただく必要性を再検討する必要があります。各委員会へ事前に来賓、OBの席次表を渡し交流がスム			

	<p>ーズに行われるように工夫をした結果、満遍なく各自交流できていたように見受けられました。式典の時間超過等で懇親会時間が押ししまい十分な歓談時間が確保できないことも予測されます。より十分な懇親を深めるために会の実施時間を延長する必要があると感じました。懇親会終了時に30分ほど現役メンバーで食事をする時間を設けましたが、結果として料理を残してしまいました。質を上げて量を減らす必要があると感じました。これからも青年会議所活動をより理解していただくために懇親会での相互交流のより良い方法を再検討をお願いします。</p>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

委員会名	会員交流委員会	委員長名	田淵 裕章
事業名	2007年度(社)鳥取青年会議所 卒業式		
実施日時	2007年11月30日(金) 18:30~19:30		
会場	ウェルシティ鳥取 梨花の間		
参加人員	内部: 61人	外部: 0人	計: 61人
外部協力者			
事業の目的に達したか	心のこもった卒業式を執り行う事で、卒業生のJC活動における功績を称え、人生の門出を全員で祝福し、感謝の気持ちを最大限にお伝えすることができました。		
実施上の問題点	日程的な問題もあり、遅刻者が多く定時に開会することができませんでした。日程調整段階では、12名の卒業生より出席の確約はいただいていたのですが、事前のやむを得ない事情によって2名の欠席者がでてしまいました。感謝状の作成を依頼した後、提出期限を大幅に過ぎる作成者が多数おられました。その後、当委員会で校正をした上で理事長に読み上げをしていただきましたが、文章的に読み辛い文章がありました。より卒業生へ感謝の気持ちが伝わるよう、作成者に十分に意義を伝えた上で余裕を持った校正が必要でした。		
次年度への引継ぎ事項	例年とは違う定例会と別日程で開催することによって時間的な圧迫感のない会の運営が可能になりました。目的を達成する上で有効な手段であったと考えます。ただし、月末ということもあり遅刻者が非常に多く見受けられました。卒業生へ日程の打診をした上で、再度集まりやすい日程の調整をお願いします。事前の綿密な時間配分をした上で適切な時間通りに会を運営することが出来ました。また、細かい動線の確認・備品の流れ・各スピーチ者の時間配分等必要になりますので、担当分けをしっかりとした上で当日まで徹底した確認作業をお願いします。感謝状の内容に関して、目的を達成するに当たってより意義のある式を運営できるよう、再度委員会で検証をお願いします。		

委員会名	会員交流委員会	委員長名	田淵 裕章
事業名	2007年度(社)鳥取青年会議所 卒業式懇親会		
実施日時	2007年11月30日(金) 19:40~21:50		
会場	ウェルシティ鳥取 砂丘の間		
参加人員	内部: 71人	外部: 0人	計: 71人
外部協力者			
事業の目的に達したか	お世話になった卒業生に対して現役会員それぞれの「感謝の気持ち」を伝え、お互いにJC活動を回想しながら懇親を深めることができました。卒業生へエールを送り、気持ちよく新しい人生の門出を皆で祝福することができました。		
実施上の問題点	事前にエールを送る練習会を設けましたが、当日卒業生へのエールを送る場において、練習通りに進行せず、その場の勢いに任せた内容になってしまいました。統制を保つために、設営する委員会として凛とした態度で若手メンバーに指示を出す必要がありました。また、エールの準備で他会場への服等の乱雑な脱ぎ捨てがあり、会場側へ迷惑を掛けてしまいました。料理を出すタイミングを早めに配膳するよう事前に指示はしていましたが、遅々になり結果		

	として料理が残ってしまいました。事前に会場側へ細かい指示を出しておく必要がありました。
次年度への引継ぎ事項	思い出を語り合いながら卒業生と現役会員が個々に懇親を深める時間を出来る限り長く取ったことによって、お互いの懇親が十分に深められました。綿密に会全体の時間配分の設定をし、事前のシミュレーションを徹底したことによって遅延することなく閉会までタイムキープがしっかりと出来ました。余興として、卒業生を取り上げたフィルム作品を上映でき、場を和ませることが出来ました。映像で演出することにより卒業生が食事に手を付けやすくする時間をとる事が出来ました。例年の伝統ではありますが、最後の胴上げの場面で通常とは逆向きでの胴上げが多く見られました。危険性を伴いますので今後、手法の見直しの必要があると考えます。再度、全体的な内容に関して検証していただき卒業生へ感動を与え、深く思い出に残る会の運営をお願いします。

委員会名	会員交流委員会		委員長名	田淵 裕章
事業名	(社)鳥取青年会議所クリスマス家族会			
実施日時	2007年12月9日(日) 18:00~20:30			
会場	ホテルモナーク鳥取 仁風の間			
参加人員	内部：68人	外部：88人	計：156人	
	(ご家族85人 外部協力者3人)			
外部協力者	鳥取大学奇術部1名、保育士2名			
事業の目的に達したか	私たちの活動を陰で支えていただいているご家族へ、全メンバーで感謝の気持ちを伝え、活動に対して更なるご理解を深めていただくことが出来ました。そして我々の1年間の活動を総括する場として会員同士、また会員と家族間の交流が和やかに行われ、今後のJC活動の活性化につながったと考えます。また、本年度一年間のJC活動を振り返りお互いの健闘を称えあい、次年度への結束を高めることができました。			
実施上の問題点	くじ引きコーナーも保育士とメンバー2名の配置をしていましたが、一時的に行列が出来てしまい、混雑を招いてしまいました。花束贈呈で贈呈を依頼した側の登壇が遅れたこと、贈呈する側が予定通りの方へ渡すことが出来なかったことなど、スムーズな運営が出来ませんでした。コース料理内のケーキをお帰りの際にお持ち帰りいただく予定でしたが、予想以上に当日の消費量が多く、満足にお持ち帰りいただくことが出来ませんでした。			
次年度への引継ぎ事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日程を例年の土曜日から日曜日に変更したことによって当日の遅刻者が数える程度で定時に開会が可能になりました。事前の聞き取り調査をした上での決断でありましたが、比較的に日曜日の方が余裕を持った出発準備が出来るようです。</li> <li>・会場を例年の場所から変更することにより、サービスと質を向上させ予算も削減することができました。事前に試食会をした上で、食事の内容をテーブル上でのコース料理形式にし、量的にも満足のいく内容にしたことによって、ゆったりと家族間で交流をしていただけました。</li> <li>・役員紹介、プレジデントリーフの交換等の細部の確認作業をしっかりと事前にシミュレーションして当日のリハーサルに望んでください。</li> <li>・運営人員に関して委員会外部の方にもご協力をいただきましたが予想以上に多忙を極めました。出来るだけ担当を細分化することによって運営業務を分散する必要があります。また、設営に関しても14時から余裕を持って開始しましたが、十分なリハーサル時間が確保出来ませんでした。すべてにおいて余裕のある設営スケジュールを設定してください。</li> <li>・すべての面においてお招きするご家族の立場に立った運営・設営を立案し、よりご家族の笑顔を引き出し感謝の気持ちが伝わるおもてなしの心の表現方法の検討をお願いします。</li> </ul>			

委員会名	会員開発委員会		委員長名	八木谷 昭一
事業名	3分間スピーチ			
実施日時	2007年1月～9月定例会時			
会場	定例会会場			
参加人員	内部：96人	外部：0人	計：96人	
外部協力者				
事業の目的に達したか	発表者を例会当日に指名することで、メンバーのスピーチに対する姿勢や意識を向上することができた。テーマをフリーにする事で発表者の個性を生かしたスピーチ内容となり、聞き手側も興味を持って聞いていた。多数のメンバーの前で限られた時間内に自分の考えや思いをしっかりと伝える修練の場とする事が出来た。			
実施上の問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に発表者リストを作成し、事前に会員交流委員会と打ち合わせを行っていたが、当日予定していた発表者が欠席の為、翌月の発表者リストを元に指名した際に、その発表者が報告等で登壇するなど重なる場面もあり、負担をかけてしまった。</li> <li>・今回、例会の中で案内をしていたが、当委員会で考えていた趣旨が十分に伝えきれず、発表者の事前準備、練習が不十分であったり時間が余ったりなど、内容がまとまらない場面もあった。</li> </ul>			
次年度への引継ぎ事項	毎月行なわれる研修です。運営等、その都度悪い所は見直して、より精度の高いものにして下さい。3分間スピーチという研修の意義を全メンバーに十分に理解していただき、より有意義な時間にしていただきたいと思います。また、今回の発表者アンケートの内容を参考に、今一度3分間スピーチの運営等工夫して下さい。			

委員会名	会員開発委員会		委員長名	八木谷 昭一
事業名	研修会員研修会			
実施日時	前期：2007年1月～4月 後期：2007年6月～9月			
会場	商工会館・樗谿公園（本陣山）			
参加人員	内部：46人 (理事役員25人 会員開発メンバー10人 研修会員前期4人 後期7人)	外部：0人	計：46人	
外部協力者				
事業の目的に達したか	<p>第1回目の研修では、(社)鳥取青年会議所の正会員となって頂くために、組織の理念・概要を理解していただいた。</p> <p>第2回目の研修では、自分たちで事業計画書を作成し、その計画書を元に、擬似理事会を開き、議論の場を体験して頂いた。その後、実際の理事会を見学し、鳥取青年会議所の活動はどのような流れで行なうかをより深く理解していただいた。</p> <p>第3回目の研修では、本年度は、理事役員と共にまちを清掃し研修プログラムを共に行なう事で、より絆を深めることが出来た。また、今後の委員会活動や各事業、まちづくりに対する意識を向上させ鳥取青年会議所活動をより活性化する一助となった。</p>			
実施上の問題点	前期、後期研修会をともに3回行ったが、スケジュール的に慌ただしく補習を設けなければならず、限られた時間内で組織の内容や活動など基本部分のみの説明で終わってしまい、更に深い内容の研修までは出来なかった。また、本年度は第3回研修会に理事役員にも参加して頂いたが、若干参加が少なく、当委員会としての呼びかけが足りなかった。			
次年度への引継ぎ事項	志を持って入会される研修会員の研修です。これまでの第1、2、3回の研修会という流れにとらわれず、今までとは違う研修スタイルも検討してみてください。また、配布資料をファクスやメール等で事前に配信したり、HP等を活用するなど、工夫していただければと思います。前期・後期の研修会員が青年会議所活動の意義をより一層理解し、充実した研修を行えるよう、ゆとりを持って更に有意義な研修会を行なってください。			



委員会名	会員開発委員会		委員長名	八木谷 昭一
事業名	全体研修会 「家族」の絆ゲーム			
実施日時	2007年8月25日(土) 12:00～26日(日) 10:30			
会場	氷ノ山キャンプ場 氷太くん研修室			
参加人員	内部：65人	外部：0人	計：65人	
外部協力者				
事業の目的に達したか	事前準備の段階から家族ごとで行動し、自分の役割に徹していただき立場を再認識することが出来た。コミュニケーションプログラムで相手の立場を考え、思いやりの心を育めた。またおじいちゃんの遺言書を通じて、家族毎で語り合うことでメンバー同士の絆を更に深めることができ、JAYCEEマンとしての個々のスキルアップと組織力の強化となった。			
実施上の問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族構成が決まった段階(お父ちゃん会)から事業当日までの期間も、全体研修会であるという当委員会の狙いが十分に伝えきれなかった。</li> <li>・参加の呼びかけや家族内での事前準備、情報の共有を図ることを各家族にも委ね、参加意識を高めようとし当委員会もサポートを行ったが、全メンバーの参加が得られなかった。</li> <li>・当日に遅刻やキャンセルが数名発生した為に、プログラムの関係上若干ではあったが家族のメンバーを移動しなければならなかった。</li> <li>・プログラムの中身に応じた実施所要時間ではあったと思うが、時間が少々タイトであった。</li> </ul>			
次年度への引継ぎ事項	本年度の工夫として、一泊二日の研修を行なう前から準備や声かけなどを共に行い準備することで、メンバー同士の交流と意識を高めて研修会に参加していただきました。一泊二日の研修をすることにより、同じ空間で一連の研修をメンバー同士が共に行なう事で、意識や考えなど様々なものが共有でき、得るものが多く、大変有意義な時間を過ごせました。ただ、今回呼びかけの期間を長く取り、参加を促しましたが、全体を見ると入会年度の浅いメンバーの参加が少なく感じました。全体研修会は全メンバーの参加意識をもって作り上げてこそ、より強い絆は生まれると思います。各メンバーの参加しやすい日程に配慮しつつ、受動的な意識になってしまいがちですが、能動的で積極的な意識に変えていくような準備、内容で実施していただきたいと思います。			

委員会名	青少年育成委員会		委員長名	野田 祐二
事業名	合宿 DE 合同演奏会 ～奏でよう！おもいやりのハーモニー～			
実施日時	2007年10月11日(木) 16:00～14日(日) 12:00			
会場	鳥取市立賀露小学校・賀露地区公民館			
参加人員	内部：66人	外部：232人 (鳥取敬愛高等学校吹奏楽部員9人 鳥取市立賀露小学校合奏部員16人 高校吹奏楽部顧問2人 小学校合奏部顧問5人 観客200人)	計：298人	
外部協力者	鳥取敬愛高等学校、鳥取市立賀露小学校、賀露地区公民館、賀露地区ボランティア、鳥取市、青少年育成鳥取市民会議会長・藤縄喜和氏、鳥取市議会議員・松本信光氏、山田屋旅館			
事業の目的に達したか	音楽という同じ志を持つ高校生と小学生という異年齢の子どもたちに、演奏発表会を設定することにより練習・合宿に目的意識を持たせることが出来た。その練習・合宿の中で、高校生は小学生への指導の喜び、責任感、小学生は高校生への憧れ、尊敬など、年代を超えた人とのコミュニケーションの中から、自分への自信、そして他人へのおもいやりの心を育むことが出来た。			
実施上の問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力して頂ける学校を探す為に大変多くの時間を必要とした。また両校とも学校行事など色々ありスケジュール調整に苦労した。</li> <li>・事前説明会を開催したが高校生保護者の出席が少なかった。</li> <li>・幾人かの学校関係者・保護者と我々との子どもに対する考え方にギャップがあり理解して</li> </ul>			

	<p>頂くのに時間がかかった（高校生と小学生を別室での就寝、公民館から山田屋までバスでの移動の要請など。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合宿中（練習・公民館）の生の様子を教育委員会・他校・民間団体などの方に見てもらう工夫が必要だった。</li> <li>・高校生と小学生が溶け込むのに1日半から2日かかった。もっと溶け込める仕掛けが必要だった。</li> <li>・因幡地域の人々に本事業を知ってもらう目的でチラシを作成したが、演奏会の動員については地元の賀露の人がほとんどだった。</li> <li>・楽器の搬送で乗用車（1Box）で運搬する予定であったが見込みが甘く（大きさ・デリケートなど）トラックを手配することとなった。</li> </ul>
次年度への引継ぎ事項	<p>本事業は今回一度だけの開催では未完成であると考えています。今回参加した子どもたちの受け取り方は人により様々ですが、今の小学生が高校生となり小学生に接したときに、今回高校生から受けたおもいやりの心に改めて気づくのではないかと思います。そしてその想いを新たな世代に伝えてゆく事で「おもいやりの心の循環」が生まれます。しかしこの度行われた事業はモデル校とすることで、話題性や他校への導入のしやすさも目指しましたが、学校・家庭・地域だけで行うにはまだまだハードルの高いもの（学校職員の体制・予算など）であると感じています。「おもいやりの心育成プログラム」を定着させ広める為にもLOMとしての長期的な取り組みを望みます。</p>

委員会名	福祉委員会	委員長名	保木本 秀行
事業名	若草学園施設交流会		
実施日時	2007年3月1日（木）10:00～11:20		
会場	若草学園・湖山西公民館体育館		
参加人員	内部：49人	外部：80人 (学生10名 園児26名 保護者26名 職員18名)	計：129人
外部協力者	鳥取大学障害児教育研究会		
事業の目的に達したか	鳥取大学の学生、研修会員、そしてメンバーが、積極的に子ども達とふれあい、又保護者や、園の職員と交流でき、活気溢れる会になった。子ども達にとっては、遊びながら園外の人との係わり合いを体験でき、学生にとっては、子ども、保護者、JCとの交流がはかれ、やさしい共生の心を育む場になったと思う。又、メンバーについては、純粋な子ども達と接することで、それぞれ福祉に対しての認識を深めていただけた。		
実施上の問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブースによっては、人手が足りない箇所があった。子ども達は、こちらが当初予定していた遊びとは違う遊び方をする場合もあり、人員の配置等、全体的に適格に指示する事ができなかった。</li> <li>・安全管理が、徹底されていなかった。</li> <li>・体育館でのお遊戯が終わってから食事を開始するまでの間、片づけをされていて子ども達を待たせる場面があった。</li> </ul>		
次年度への引継ぎ事項	施設交流の必要性をしっかりと考えながら、取り組んでいただきたい。企画段階から学生と一緒に行う事で、お互い学ぶ事もあり、事業に広がりをもつことができた。今後も外部協力者とのかわりについて検討していただきたい。実施にあたっては、協議時に予定していたクッキー作りが、ノロウィルスの影響で急遽中止になり、内容、タイムスケジュールの変更があった。継続されてきた親子でのクッキングについては、今後も難しくなると思うので、園側と綿密な打ち合わせを行い、子ども達の成長に繋がる事業を企画していただきたい。		

委員会名	地域間交流委員会		委員長名	森田 浩二
事業名	きんさい因幡 鳥取自動車道に乗って in 加西			
実施日時	2007年9月16日(日)・17日(月) 両日AM10:00~PM5:00			
会場	中国縦貫自動車道 上り 加西サービスエリア内			
参加人員	内部：16日26人	外部：16日1, 718人		計：16日1, 744人
	17日36人	17日2, 207人		
		協力者	参加者	
		16日18人	16日1, 700人	
		17日 7人	17日2, 200人	
外部協力者	鳥取県・鳥取市・岩美町・若桜町・智頭町・八頭町・鳥取市若者会議・鳥取いなば農業協同組合・(株)中村商店・国土交通省鳥取河川事務局・とっとり総合政策研究センター・西日本高速道路サービス・ホールディングス(株)			
事業の目的に達したか	幅広い地域外のサービスエリア利用者に鳥取自動車道並びに因幡の魅力を伝えることができた。シールアンケートという手法を用いて多くの人に無料の高速道路、鳥取自動車道開通の意識付けにつながったとともに認知度・情報ニーズ等、数値化できた。サービスエリア利用者との交流を通し、地域外へのPRの必要性を改めて感じることができ、今後の鳥取自動車道開通に向けた取組の一步となった。			
実施上の問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シールアンケートの際、参加者1人に時間をとりすぎ、サンプル数が少なかった(1日目)。</li> <li>・また、フリースペースへの書き込みが思うように集まらなかった(両日)。</li> <li>・地域外での事業ということもあり十分にマスコミの巻き込むことが出来なかった。</li> <li>・砂丘に関するパネル・周辺MAPなどをもっと用意活用すれば、より効果的に鳥取砂丘の魅力を伝えることが出来たと思う。また、砂丘大型パネルを展示したがテント内が暗くなるなど演出面の工夫が必要であった。</li> </ul>			
次年度への引継ぎ事項	本年度、地域外にて事業を行いました。今後も鳥取自動車道開通に向け、鳥取自動車道並びに因幡地域の様々な魅力を継続的に地域外へ発信して行かねばなりません。また鳥取自動車道の認知度については一定期間毎に追跡調査が必要と考えます。地域外や地域内で因幡地域の情報発信事業では、鳥取自動車道開通PRを合せて行っていただきたいと思います。			

委員会名	ふるさと発信委員会		委員長名	高藤 大祐
事業名	第43回鳥取しゃんしゃん祭への参加～因幡市民連～			
実施日時	2007年8月11日(土) 17:00～21:30			
会場	若桜街道(鳥取市役所駐車場～鳥取駅前風紋広場)			
参加人員	内部：52人	外部：94人		計：146人
外部協力者	しゃんしゃん祭振興会 鈴の音会			
事業の目的に達したか	因幡を代表するしゃんしゃん祭に、地域内外に住む方々をはじめ、日本国外から、また年齢層も幅広い多くの方々に参加していただけた。練習から本番にかけ、この因幡独自の傘踊りという郷土の文化に触れ、地域に対する愛着心はもちろん、因幡市民連として舞うことにより、自身のふるさとに対する誇りを持っていただける場となった。またしゃんしゃん祭振興会に対しても祭りに想いのある人達の多さと、今回の因幡市民連の試みを知っていただけた。大きく評価していただけた。そして今後多くの市民が参加する必要性を理解して頂き、今後の祭りの取り組みに加えていただけるきっかけになった。			
実施上の問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募集の問い合わせ先を事務局にて行っており、夜間時の対応が出来ていなかった。</li> <li>・事前の細かい打ち合わせが不十分だったため、事業当日、誘導、荷物の管理、傘の受け渡しなど十分な指示、対応が出来ないところがあった。</li> <li>・祭りの当日、因幡市民連集合時間からスタート時間までの待ち時間が長いとの声があった。</li> <li>・踊り終えた後、参加者全員に集まっていたく予定でいたのですが十分な指示が出せなか</li> </ul>			

	<p>ったため途中で帰ってしまわれた方が多数おられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営する委員会メンバーの事業に対する意識が足りない所があった。アンケートの回収に時間がかかった。</li> <li>・郷土の文化への親しみを醸成する場として組織したが、練習・祭り本番を通して、参加者同士の連帯感を誘発する仕掛け（市民交流）が十分できなかった。</li> <li>・アンケートだけではなく、参加者の生の声を十分に把握できる場がなかった。</li> </ul>
次年度への引継ぎ事項	<p>ここ近年、鳥取しゃんしゃん祭は、2009年因幡の祭典に向け、また鳥取を代表する夏祭となるため、様々な志向を凝らし、大きく変ろうとしています。そのため、年々祭のスタイルは変わり、参加する連、また人達に戸惑いを与えているというのが現状です。因幡市民をはじめまだまだ祭に参加したいと思っている人達は沢山いらっしゃいます、募集から、練習、運営方法を、その年その年の祭に合わせ工夫し、柔軟に対応できるよう、取り組んでいただきたいと思います。また、しゃんしゃん祭振興会と十分な連絡・調整を行いながら、参加する方々の疑問や不安を少しでも解消できるような連携が必要であると思います。</p>